

平成16年度川崎市事業評価検討委員会（第2回）摘録

- 1 日 時 平成17年3月11日（月） 9:30～11:30
- 2 場 所 川崎市役所第3庁舎15階第2、第3会議室
- 3 出席者
委 員 原田博夫会長 輿水肇副会長 加藤仁美委員
高千穂安長委員 室町泰徳委員
交通局 山元本部長 若林参事 岡元主幹 高久主幹 松本主幹
まちづくり局 寒河江計画部長
財政局 大村財政計画担当主幹
総合企画局 北條局長 木場田政策部長
飛弾政策評価担当主幹 岩瀬政策評価担当主査
- 4 議 題 川崎縦貫高速鉄道線整備事業に関する事業評価対応方針案について
(1) 審 議
(2) 具申意見のまとめ
- 5 公開及び非公開の別 上記、議題(1)については公開、議題(2)については非公開とする。
- 6 傍聴者 4名

<会議>

事務局

開会

本日の会議については、審議は公開とするが、具申意見のとりまとめについては非公開とする前回委員会の決定を受け、議題1の審議については公開とし、議題2の具申意見のとりまとめについては非公開の手続きを行った。

会長

今回もひきつづき具申内容の作成に向けた基本的な事項についての質疑を行い、休憩を挟んで後半は、委員だけで具体的な具申内容の検討を行う。具申意見の取りまとめを行う場合は非公開で行うので、後半の部分については、事業局である高速鉄道建設本部及び傍聴者やマスコミの皆様にはご退席をいただく。

初めに、前回の会議で宿題になっていた事柄について、交通局にまとめて答えていただく。

交通局

「第1回の審議による補足説明資料」にもとづいて、川崎市区別将来人口の推移、駅位

置概要及び乗換時間設定の考え方、年齢階層別将来人口予測、費用対効果分析における時間価値の考え方、需要予測感度分析結果の5項目について説明

会長

武蔵小杉駅の駅位置についてだが、暫定的に仮定している駅位置から移動があった場合の建設事業費の影響についてはどうか。

交通局

今後関係者との協議を深めるなかで、駅位置を決めていくことになるが、駅位置のずれることで事業費が大きく変わることはないと考えている。

会長

駅位置により、需要に影響がでる可能性が高いと考えられるか。

交通局

総需要に与える影響より、経路の選択に影響を与えると考えられる。

委員

コスト増による引当については、需要予測を固めにみているという他に対応はあるか。

交通局

地下鉄事業の場合、多くは道路下を通り、民地については地上権設定で済むことから、用地の取得等に伴う事業の遅れ、事業費の増大は考え難い。想定できるものは可能な範囲で事業費として見込んでいる。

会長

室町委員からだされていた宿題について先程説明があったが、よろしいか。

委員

結構です。

委員

等々力緑地の駅位置について、もう少し近くにならないか。この位置が最適であるといえるか。

交通局

等々力緑地により近いルートを設定すると、1.8km程度遠回りになり、駅を設ける必要も出てくることから、360億円程のコスト増となる。民地の下を通る場合は、この場所は密集市街地を形成しており、地上権の設定が困難である。等々力緑地駅から緑地へのアクセスについては今後関係局と協議していきたい。

会長

等々力緑地の利用者については数字の積み上げはしているのか。

交通局

等々力緑地の利用者は需要に見込んでいないので、そうした利用があれば単純に利用者増になる。

委員

等々力緑地の場合、平常時と緑地でイベントがあった場合とでは利用者数が違うが、そうしたピーク時への対応はできているのか。

交通局

駅施設については、今後詳細な設計の中で対応を図っていきたい。

委員

南武線との競合があると思うが、どう整理しているか。小杉以南の2期整備の考えを確認したい。また、新百合ヶ丘から横浜方面への交通需要も高いが、横浜3号線の延伸についてお聞きしたい。

交通局

運輸政策審議会の答申では、新百合ヶ丘から川崎までであるので、当然そのように考えている。ただし、詳細なルートの設定についてはこれからの作業である。

新百合ヶ丘から横浜方面へのアクセスについてだが、横浜3号線の延伸については事業者が横浜市であり、本市域の部分は運輸政策審議会の位置付けではA2と、川崎縦貫高速鉄道線のA1より一ランク低い位置付けになっている。

会長

再評価の対象となっているのが、元住吉接続であり、2期工事までを再評価の対象としていないので、議論に制約があるのは止むを得ない。

仮に事業化をめざすとして、事業手法については色々考えられるがその辺りの考え方はどうか。

交通局

基本的には、交通局が整備し運行することになるが、駅業務の委託、保守業務の委託、運転手嘱託化、あるいは運転手がいなくて済むシステムの導入等を検討し、ランニングコストの軽減を図っていきたい。

委員

需要予測モデルは、最新のものをを用いており制度上は問題ないが、地下鉄をつくれば黙っていても需要予測値が達成されるというものではない。現在の交通機関とシェアの奪い合いの一面もあるので、需要予測値は計画目標値であるとの認識を持って事業主体としての営業努力が必要だ。

この間、1万人アンケートを行っているので、しっかりとした市民への説明が必要だ。市民との関わりを持ち、市民のニーズを受け止める方策が必要。

交通局

開業まで時間があるので、市民への情報発信を今まで以上に行っていきたい。競合相手は南武線になるが切磋琢磨してサービスの向上に努めたい。

今後市民の意見を十分とり入れながら進めていきたい。四月以降には各区で今回の内容を説明して回りたいと考えている。

会長

ここで15程度休憩を取る。その後、具申内容のとりまとめに入るが、具申内容の検討については、非公開とすることで前回決定しているので、傍聴の方、マスコミの方、事業局の方には御退出いただく。なお、具申内容については、後日市長に直接報告することとしている。

< 休憩15分 >

会長

当委員会の会長宛てに市民の方から要望書の提出があった。各委員へも配布するよう要望書を預かったので配付する。

要望のうち、2期整備を含めて事業再評価をやるべきことや、川崎市の他の事業と比べて地下鉄が優先すべき事業なのかなどについては、当委員会の職務の範囲外のものと考ええる。また、収支計算の前提となるデータ、需要予測値、建設費の見積りなどについての妥当性の検証については、まさに当委員会で議論してきた内容であると考え、宜しいか。

各委員

意義なし

会長

これまでの議論を踏まえ意見具申の叩き台を作成したので、事務局に一度読んでもらいたい。その後に修正すべき文言や追加すべき事項等があれば、意見を伺う。

事務局

会長から示された「川崎市平成16年度再評価実施事業の審議結果について」を朗読

< 朗読後、文言等の整理、修正、追加などの意見があった。 >

会長

他にないようであれば、これでまとめたい。修文作業的なことについては、私に御一任いただいて宜しいか。

各委員

意義なし。

< 閉会 >